

第3章 健康医療情報等の分析 分析結果修正一覧表

1. 被保険者構成の将来推計 8ページ～10ページ		
項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①人口と高齢者化率	人口は減少し、高齢化率は上昇している。現在は、団塊の世代が後期高齢者の年齢になりつつあり、さらに高齢化率が上昇する見込みである。	少子高齢化が加速しており、令和4年からは団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に移行し、超高齢化社会を迎えることが避けられない状況である。超高齢化社会により医療や介護の需要と供給のバランスが崩れる問題（2025年問題）が懸念される。
②産業構造の割合	第二次産業事業率は、県・国より高い。第三次産業は、県・国より低い。	工業団地が整備され企業誘致も進んでいることから第二次産業事業率は国、県よりも高い率となっている。
③被保険者の状況	被保険者数は年々減少し、年齢割合も若年層が減少し、近年は前期高齢者である65～74歳の割合が5割を超える状況となっている。平均年齢は微増の状況である。	社会保険適用拡大により、稼働年齢層の被保険者数は減少傾向にあるため、今後この状況が進むと考えられる。
2. 死亡の状況 11ページ～13ページ		
項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①平均寿命と平均自立期間	平均寿命と平均自立期間は男女ともに伸びている。	本市の平均寿命は、県と同様に延伸した。平均要介護期間も県平均と同じ傾向である。
②死因別死亡数	【男性】EBSMR（標準比死亡比）では急性心筋梗塞や心不全といった心疾患と慢性閉塞性肺疾患が高い。	【男性】全国の基準を100とした標準化死亡比（EBSMR）では、急性心筋梗塞や心不全といった心疾患と慢性閉塞性肺疾患が高いため、動脈硬化を引き起こす高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病の予防が必要となる。 【女性】全国の基準を100とした標準化死亡比（EBSMR）では、急性心筋梗塞や心不全といった心疾患が高いため、動脈硬化を引き起こす高血圧、脂質異常症、糖尿病の予防が必要となる。 男女共に高血圧の方が多く、また、男性は喫煙者が多いことによる影響がある。
	【女性】EBSMR（標準比死亡比）では急性心筋梗塞や心不全といった心疾患が高い。	

3. 介護の状況 14ページ～19ページ		
項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①認定者数・新規認定者数	介護認定数は4,500～4,600人で推移している。新規認定率は横ばいの状況。	第1号被保険者の認定率は、令和元年度の18.2%をピークに微減傾向となっており、令和4年9月末時点では、県や国と比較してやや低くなっている。
②介護認定者の有病状況	心臓病、筋・骨格、高血圧、精神の順の高い数値となっている。	有病率の割合は、ほとんどの疾病で横ばいの状況であり、特に有病率の高い心臓病、筋・骨格、高血圧症の対策が必要となる。
③要介護の年齢別割合	約9割が75歳以上。	高齢化の影響により、40～74歳の割合が減少し、75歳以上の割合が増加している。今後、団塊の世代の後期高齢者への移行の影響により、さらに75歳以上の割合の増加が見込まれる。
④要介護度の割合	各区分は同じような割合で推移している。 要介護1の割合が大きい。	全体としては、要介護1、2の割合が高く、要介護3、4の割合は増加傾向で、要支援1、2と要介護5は減少傾向にある。また、40～64歳では脳血管疾患、がん（末期）の割合が多いことから重度の割合が多い。
⑤介護給付費の状況	近年、若干減少傾向にある。	全体的に1件当たり、介護度別1件当たりでも金額に大きな変動はない。
⑥2号被保険者の原因疾患	脳血管疾患、がん（末期）の割合が多い。	脳血管疾患、がん（末期）の割合が高いため、脳血管疾患では、高血圧、動脈硬化、喫煙に対する対策が必要であり、がんに対しては早期発見早期予防のため、がん検診の受診率向上のための対策が必要となる。
4. 医療費の状況 20ページ～33ページ		
項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①医療の状況	令和2年度からのコロナ感染拡大の影響については、感染拡大が始まった令和2年度は全国的に受診控えにより、医療費が減少傾向であったが、甲賀市は微増となった。要因については、令和2年度は血液に関する疾病など高額医療の対象となった方がいたことが影響している。令和3年度も医療費は増加し、令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波の影響により、入院制限もあったことから、特に入院費が減少した影響で医療費全体も減少している。いずれにしても、県内で医療費が高い水準にある。	令和2年度からの 新型コロナウイルス の感染拡大の影響については、感染拡大が始まった令和2年度は全国的に受診控えにより、医療費が減少傾向であったが、甲賀市は微増となった。要因については、令和2年度は血液に関する疾病など高額医療の対象となった方がいたことが影響している。令和3年度も医療費は増加し、令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波の影響により、入院制限もあったことから、特に入院費が減少した影響で医療費全体も減少しているが、県内で医療費が高い水準にある。
②入院医療費の状況	入院の割合では、「がん」が18～19%で、次に「精神」が9～10%、次いで「筋・骨格」が8～9%を占めている。	がん、筋・骨格、精神が件数が多く、費用額も高額であることから、がんでは、早期発見早期治療のためのがん検診の受診勧奨、筋・骨格では運動習慣の推奨、精神ではメンタルヘルス対策などが必要である。
③被保険者一人当たり医療費（入院）	年によって県内順位に変動があるが、「精神」県内2～3位で推移している。	金額の上位は、がん、筋・骨格、精神であり、がんの金額は増加傾向にある。また、精神の金額の県内順位が上位で続いている。
④医療費細小分類の状況（入院）	統合失調症と関節疾患の割合が高い。R3からR4にかけて慢性腎疾患（透析あり）が急激な伸びとなっている。	【変更なし】

項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
⑤高額レセプトの状況	悪性新生物はR3を除き増加傾向で、R4では1億円を超えた。	悪性新生物は増加傾向であり、R3では1億円を超えた。早期発見早期治療のためのがん検診の受診勧奨が必要である。
⑥人工透析の状況	件数と費用額は増加傾向にあり、R4では前年度比で下がったが高い水準にある。	件数では、1000件を超え、費用額では4億円から5億円と高額となっていることから、重症化予防が重要となる。
⑦疾患の重なり	脳血管疾患、虚血性心疾患、人工透析すべてにおいて高血圧が80%以上、糖尿病と脂質異常症は40～60%の重なりがある。	脳血管疾患、虚血性心疾患、人工透析すべてにおいて高血圧が80%以上、糖尿病と脂質異常症は40～60%の重なりがあり、高血圧対策、生活習慣病予防が重要となる。
⑧外来医療費の状況	「がん」の割合が増加傾向でR4では20%を超えている。「糖尿病」は10%前後、「筋・骨格」は減少傾向にある。	【変更なし】
⑨被保険者1人当たり医療費（外来）	糖尿病は県内上位が続いており、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、がんも近年上昇傾向で上位となっている。	【変更なし】
⑩医療費細小分類の状況（外来）	糖尿病、慢性腎疾患（透析あり）、高血圧症が上位3位で5年間同順位となっている。	【変更なし】
⑪服薬者の状況（特定健診質問票より）	高血圧では男性のほうが10%程割合が高く、糖尿病では男性のほうが女性の倍の割合となっており、脂質異常症では女性のほうが男性より高い。	【変更なし】

5. 特定健診の状況 34ページ～48ページ

項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①特定健診受診率の状況	H29からH30にかけて大きく伸びているが、R2では <u>コロナ</u> の影響により落ち込んでいる。R3には <u>コロナ</u> 前に戻りつつある。	H29からH30にかけて大きく伸びているが、R2では <u>新型コロナウイルス</u> の感染拡大の影響により落ち込んでいる。R3には <u>新型コロナウイルス</u> の感染拡大前に戻りつつある。
②男女別・年代別受診率	40歳代は男女とも20%台で最も低く、50歳代では女性のほうがやや高いものの女性が30%台となっている。60歳代以降でも女性のほうが男性よりも受診率が高い。	【変更なし】
③新規、継続受診者等の状況	3年連増未受診者の割合は減少傾向にある。	3年連増未受診者の割合は減少傾向にあるが、健診未受診者かつ生活習慣病治療なし（レセプトなし）者の割合が約40%あるため、改善が必要である。
④メタボ該当者の状況	男女とも <u>メタボ</u> 該当者の県内順位が高い。	男女とも <u>メタボリック</u> 該当者の県内順位が高い。
⑤有所見者の状況	男性は、腹囲、収縮期血圧、HbA1cの割合が高く、女性は収縮期血圧、HbA1c、LDLの割合が高い。	【変更なし】
⑥特定健診受診者の治療状況	生活習慣病治療中のうちコントロール不良者の状況は、県平均より若干高い。情報提供対象者のうち受診が必要な者の状況は、R2,R3で県平均を下回った。	【変更なし】
⑦重症化予防対策の状況	<u>メタボ</u> 該当が30%台、HbA1c6.5以上が60%台と割合が高い。	<u>メタボリック</u> 該当が30%台、HbA1c6.5以上が60%台と割合が高い。

項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
⑧特定保健指導の状況	特定保健指導の終了率は、横ばいで県平均より低い。	【変更なし】
⑨健診問診票の状況	【男性】 服薬では、高血圧、糖尿病、脂質異常症すべてにおいて増加傾向にある。 食習慣についてはあまり変化がない。 間食の接種の割合が50％以上と高い。 運動習慣は40％程度。 喫煙は減少傾向である。 飲酒頻度の毎日が40％以上と高めである。 飲酒量は、1合未満が30％。	【変更なし】
	【女性】 服薬では、高血圧、糖尿病、脂質異常症すべてにおいて増加傾向にある。 間食の接種の割合が50％以上と高い。 運動習慣は40％程度。 喫煙は増加傾向である。 飲酒量は、1合未満が近年増加傾向ある。	【変更なし】
6. その他 49ページ～51ページ		
項 目	分析結果（修正前）	分析結果（修正後）
①がん検診の状況	R2の胃がん、大腸がん、肺がんについては <u>コロナ</u> の影響で若干受診率が下がった。	R2の胃がん、大腸がん、肺がんについては <u>新型コロナウイルス感染症</u> の感染拡大の影響で若干受診率が下がった。
②歯科の現状	受診者数は年々減少している。	【変更なし】
③食塩摂取量の状況	食塩は、摂りすぎており、県と比較しても高い。	食塩摂取量は、国の目標値の7gを超えており、県と比較しても高い。
④野菜摂取量の状況	野菜摂取量は、不足しており、県とほぼ変わらない。	野菜摂取量は、国の目標値の350gを下回っており、男性は県とほぼ同じで、女性は県よりも多い。